



# News Letter



No.10



## 目 次

<b>会長からの挨拶</b>	1
<b>日本学術会議会長談話</b>	3
<b>日本生命科学アカデミー後援シンポジウム</b>	5
<b>事務局からのお知らせ</b>	10
<b>日本生命科学アカデミー会員の皆様へ</b>	11
<b>日本生命科学アカデミー賛助会員の皆様へ</b>	12
<b>会員・賛助会員ご入会申込書</b>	13

# 会長からの挨拶

日本生命科学アカデミー 第9代会長

武田洋幸

武田 洋幸

平素より日本生命科学アカデミーの活動に格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。このたび、News Letter の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

私は、2024年4月より第8代会長・石川冬木先生の後任として、日本生命科学アカデミー第9代会長を拝命いたしました武田でございます。本アカデミーは、前身である日本医歯薬アカデミーの設立を含め、今年で38年の歴史を数えます。2017年4月には、現在の「日本生命科学アカデミー」へと改称し、今日に至っております。本アカデミーの現在の使命は、日本学術会議第二部（生命科学）の活動を支援し、その成果を広く社会へ伝えていくことにあると認識しております。

私自身、2017年10月から2023年9月にかけて第二部の幹事（第24期）および部長（第25期）を務めましたが、その間、日本学術会議を取り巻く環境は大きく変化いたしました。2020年10月の政府による任命拒否に端を発する学術会議のあり方をめぐる議論、そして同年1月より始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大が、日本学術会議の活動に大きな影響を与えました。とりわけ COVID-19 に対する対応では、第二部が中心的な役割を担い、ワクチンを含む科学的知見や中長期的な社会課題について正しい情報を発信すべく、日本学術会議主催の学術フォーラムや、第二部・分科会主催の公開シンポジウムが多数開催されました。当アカデミーは、これらの取り組みを経済的側面から支援してまいりました。



私が会長を引き継いだ 2024 年春には、COVID-19 はすでに収束へと向かっていました。そして、つい最近の 2025 年 6 月 11 日には、政府提出の「日本学術会議法案」が国会で可決され、日本学術会議の法人化が正式に決定いたしました。第 25・26 期を通じて続いた制度改革をめぐる議論は、大きな節目を迎えることになります。法人化が日本学術会議にとって真に意義あるものとなることを、心より願っております。また、こうした社会的変化に加え、これまで当アカデミーの事務業務を委託しておりました日本学術協力財団が、2025 年 3 月をもって解散となり、現在は長野理事（事務局長）を中心に、新たな事務体制の整備を進めております。

このように、多方面にわたる大きな変動の中にあっても、私たちは日本学術会議における生命科学分野の活動を着実に支えていく責務を担っております。現代における生命科学に関連する諸課題は、ますます複雑かつ多様化しております。当アカデミーの活動内容につきましては、ホームページ (<https://www.jals.jp/>) にてご確認いただけます。今後も本アカデミーの活動をさらに活性化させ、その財政的基盤をより強固なものとすべく、皆様の一層のご理解とご協力を賜れますようお願い申し上げます。

引き続き、温かいご指導とご支援を心よりお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和 7 年 6 月 27 日

# 日本学術会議会長談話

## 「日本学術会議法案の成立を受けて」

日本学術会議の法人化を内容とする、政府提出の「日本学術会議法案」については、6月11日の参議院本会議において可決され、成立しました。国会における審議を通じて、日本学術会議は、4月15日の総会において採択された声明「次世代につなぐ日本学術会議の継続と発展に向けて～政府による日本学術会議法案の国会提出にあたって」及び決議「日本学術会議法案の修正について」に基づき、決議の趣旨、独立性、評価委員、法人発足時及び発足3年後の会員選考を含む会員選考のあり方、財政基盤等について、日本学術会議の考えを述べてまいりました。国会においては与野党を問わず、これまで日本学術会議が示してきた懸念を中心とした議論が長時間にわたって行われたところであり、参議院においては、日本学術会議の懸念も踏まえた修正案が提出され、審議が行われました。日本学術会議の歴史や過去の活動を振り返りつつ、また未来を見据えて真摯に審議いただいた国会議員の皆様に改めて敬意を表します。また、この間、学協会及び連携会員をはじめ、多くの個人、団体から、法案への懸念が表明されることなどを含めて、日本学術会議への支援を賜りました。改めて御礼を申し上げます。そもそも、今回の組織改革にあたっては、政府と日本学術会議が互いに議論し、科学者の代表機関である日本学術会議の意見が適切に反映される形での検討が行われることが、本来のあるべき姿でした。しかし、会員任命拒否問題など日本学術会議と政府の間の信頼関係が損なわれた中で議論が始まり、日本学術会議の独立性を損なうのではないかという懸念が払拭されないまま法案が国会に提出されたことの問題については改めて指摘しておかなければなりません。

結果として法案は原案のとおり可決され、日本学術会議が求めてきたような法案の修正には至りませんでした。法案の修正を求める旨の決議を行った日本学術会議としては、国会において日本学術会議の示してきた懸念に関する審議が行われていただけに非常に残念であります。しかしながら、衆議院内閣委員会及び参議院内閣委員会においては、それぞれの委員会を通じた審議を踏まえた附帯決議が採択されたところであり、会員の選任や科学的助言等、運営及び活動における日本学術会議の独立性、自主性及び自律性の尊重、必要な財政支援、日本学術会議が行う勧告、答申等の尊重等について国会の意思として明確に示さ

れました。これらについては、今後の制度設計だけでなく、政府と日本学術会議の関係のあり方において極めて重要なものと受け止めております。そして、日本学術会議に対する指摘については、謙虚に受け止め真摯に対応いたします。

政府においても、法に基づく運用を行うに当たって、これらの附帯決議で示された内容を遵守し、会員の選任や科学的助言等、運営及び活動における日本学術会議の独立性、自主性及び自律性の尊重、必要な財政支援、日本学術会議が行う勧告、答申等の尊重等の点を十分に踏まえて対応することを強く求めます。また、衆議院及び参議院いずれの附帯決議にも盛り込まれた、令和2（2020）年の会員任命拒否問題についての説明責任を果たすこと、日本学術会議との信頼関係の構築に努めることとされた点についても、法に基づく法令の立案や運用に当たって日本学術会議との十分な対話をを行うなど、改めて政府における誠意ある対応を求める。法案が成立した今、日本学術会議もまた独立性、自主性、自律性を確保しながらナショナルアカデミーとしての役割を發揮していくためになすべきことをなさねばなりません。声明では、76年の歴史を有し世界の学界と連携して学術の進歩に貢献してきた日本学術会議が、これまで引き継ぎ、そして発展させてきた理念や使命が変わらず存続するよう、我々科学者自身で確認し、国民、社会に向けて誓約する必要があることを述べました。それに加え、これからも学術の振興を通じて文化を育み、平和で豊かな社会を作り、安心して生き甲斐があり、健康で文化的な国民生活の維持増進に貢献していくことを、新たな日本学術会議法が成立した今、改めて表明いたします。

そのために、新たな法律の下での日本学術会議のさらなる発展に向けて、日本学術会議においても準備、検討を開始いたします。そして、日本学術会議が自ら主導することで、日本学術会議の継続性を確保し国民や社会の期待に応える制度設計を進めてまいります。また、準備に際しては、政府とのコミュニケーションを図ってまいります。最後に、今次の日本学術会議のあり方に関する議論を糧として、組織改革だけでなく、世界及び国内の社会課題の解決に寄与しつつ、学術の更なる発展のために自ら行動し、「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」及び「日本学術会議第26期アクションプラン」による自らのさらなる改革を進め、次世代へと引き継ぐことを国民、社会に対し約束するという我々の宣言に従って、今後、活動を進めてまいります。

令和7年6月12日  
日本学術会議会長 光石 衛

# 日本生命科学アカデミー後援シンポジウム

## 日本学術会議後援公開シンポジウム

### 「サステナビリティな社会を創るために公衆衛生はどうあるべきか」

【日時】令和6(2024)年10月30日

【会場】札幌コンベンションセンター

【主催】日本学術会議健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会  
日本公衆衛生学会

【後援】日本生命科学アカデミー

公開シンポジウム  
日本学術会議健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会主催

サステナビリティな社会を創るために  
公衆衛生はどうあるべきか

座長 橋本英樹  
(日本学術会議連携会員 (特任) 東京大学大学院  
医学系研究所公共健康医学専攻教授)  
中村桂子  
(日本学術会議連携会員 東京医科歯科大学大学院  
医歯学総合研究科国際保健医療事業開発学分野教授)

15:25 開会挨拶 碇博康 (日本学術会議副会長 国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター国際医療協力局  
グローバルヘルス政策研究センター長)

15:30 パンデミック下の感染症政策に資する  
行動経済学研究:アカデミアと行政の  
協働による社会実装 佐々木周作 (大阪大学感染症総合教育  
研究拠点特任准教授)

15:45 企業のサステナビリティの  
一端を担う産業保健の立場から  
戸津貴子 (PwC Japan同会社産業医)

16:00 学際領域としての医療経済学の立場から考える  
社会実装 野口晴子 (日本学術会議第一部会員  
早稲田大学政治経済学部教授)

16:15 パブリックヘルス科学の  
超学際融合フォーラムの展開 中村桂子 (日本学術会議連携会員 東京医科歯科大学大学院  
医歯学総合研究科国際保健医療事業開発学分野教授)

16:30 総合討論

16:55 閉会挨拶 玉藤晴子 (日本学術会議第二部会員  
北海道大学大学院医学研究院教授)

公開シンポジウム  
10/30 WED

日本学術会議×第83回日本公衆衛生学会総会  
日本生命科学アカデミー後援

札幌コンベンションセンター  
第7会場  
対象:一般の方どなたでも  
参加費無料、要事前登録

QRコード  
参加を希望される方は、  
左記QRコードから事前に申込をお願いいたします。  
当日は会場受付にて申込完了メールを提示し、  
入場してください。

\*問い合わせ先: publichealth-office@med.hokudai.ac.jp

# 日本学術会議後援公開シンポジウム

## 「女性理系研究者が拓く未来—歯学から芽生える新たな可能性」

【日時】令和6(2024)年10月30日

【会場】パシフィコ横浜およびオンライン

【主催】日本学術会議歯学委員会、科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会

【共催】日本矯正歯科学会、先端歯学国際教育研究ネットワーク

【後援】日本生命科学アカデミー

第83回日本矯正歯科学会学術大会  
公開シンポジウム

女性理系研究者が拓く未来  
-歯学から芽生える新たな可能性

令和6年(2024年)  
10月30日(水)16:00~18:00

オンライン視聴はこちのHPから可能です  
※会員登録は必要ありません。  
※日本矯正歯科学会学術大会参加者以外の方は、  
オンライン視聴のみとなります。

開催趣旨

世界保健機関(WHO)は、「口腔の健康」を、食べる、話す、呼吸するといった、人が人らしく生活する上で欠かせない重要な機能を支撑することができる口・歯・口腔歯槽構造の状態を定義しています。これは單に、「肉体的に異常がない」ということだけにとどまらず、「自然に満ちている」、「身体的・精神的・社会的に良好な状態」である。"痛み・不快感・不適感を自覚することなく日常生活に貢献したり努力したりできる"といった心理・社会的な面をも含んだ包括的な概念となっています。歯学は、製口器系の機能に不調をもたらす疾患・障害・身体的状態をしたたり改善したりするための心配・治療・研究する医療系学問分野として発展してきました。また近年では、適切な口腔ケアが生活習慣病や認知障害等の全身疾患の予防に寄与し、全人類の健康への構成しなじむことから、健康長寿社会実現に向けた継なる領域として注目されています。一方、現在我が国のがん研究分野において活躍する女性の割合は、OECD加盟国中最低レベルとなっており、科学者コミュニティにおけるダイバーシティ・エクイティの実現や、女性理系研究者のロールモデル構築による次世代人材育成が急務となっています。歯学分野から、最新の歯科医療を実践するカタログデーターのみならず、歯学の枠にこなれて「未来のワイヤレス医療」を研究的・切口(第一線の研究者より、多様な女性人材が輩出されているもの)、指導的立場で活躍する女性の数はまだ多くないといえます。そこで、本シンポジウムでは、基礎、臨床の分野の最前線で活躍される女性歯科医師・研究者をお招きし、ご自身の研究テーマごとの出会いやその醍醐味を紹介いただくとともに、多様性と包括性を持って歯学のエンパワーメントを図る方策について提言いただく予定です。

開会挨拶 村上 伸也 日本学術会議 第一部会員・歯学委員会委員長 新井 一仁 公益社団法人 日本矯正歯科学会 理事長  
講演 岸長 梶田 京子 内閣府健康・医療戦略会員、日本学術会議連携会員、先端医学国際教育研究ネットワーク 参加  
大隅 典子 東北大学副学長、同大学院医学系研究科准教授、先端医学国際教育研究ネットワーク 参加  
演者 Breaking Boundaries: 完璧を求めるという方法 石丸 直澄 日本学術会議 連携会員  
茂呂 和世 先端医学国際教育研究ネットワーク委員、大阪大学 大学院医学系研究科・生体診査学教室 教授  
内閣府健康・医療戦略会員、日本学術会議連携会員、先端医学国際教育研究ネットワーク 参加  
大隅 典子 東北大学副学長、同大学院医学系研究科准教授、先端医学国際教育研究ネットワーク 参加  
演者 老若男女すべての人の「健康と笑顔の礎」である歯を取り戻すために 石丸 直澄 日本学術会議 連携会員  
丸川 恵理子 ~理想的な顎骨・歯肉の再生と咬合の再建を追求する~  
丸川 恵理子 日本学術会議連携会員、東京科学大学 大学院医歯学系研究科・口腔再生歯学分野 教授  
総合討論

進行 梶田 京子 日本学術会議 第一部会員・歯学委員会委員長 石丸 直澄 日本学術会議 連携会員、先端医学国際教育研究ネットワーク 参加  
大隅 典子 内閣府健康・医療戦略会員、日本学術会議連携会員、先端医学国際教育研究ネットワーク 参加  
討論者 茂呂 和世 先端医学国際教育研究ネットワーク委員、大阪大学 大学院医学系研究科・生体診査学教室 教授  
丸川 恵理子 日本学術会議連携会員、東京科学大学 大学院医歯学系研究科・口腔再生歯学分野 教授  
山城 隆 日本学術会議連携会員、東京科学大学 大学院医歯学系研究科 教授

閉会挨拶 森山 啓司 日本学術会議 第一部会員・歯学委員会委員長、歯床系歯学分野会委員長、第83回日本矯正歯科学会学術大会大會長、  
東京科学大学副学長、同大学院医学系研究科准教授

主催: 日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会・歯床系歯学分科会・臨床系歯学分科会、科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会  
共催: 公益社団法人 日本矯正歯科学会、先端医学国際教育研究ネットワーク 後援: 日本生命科学アカデミー

# 日本学術会議後援シンポジウム(市民公開講座)

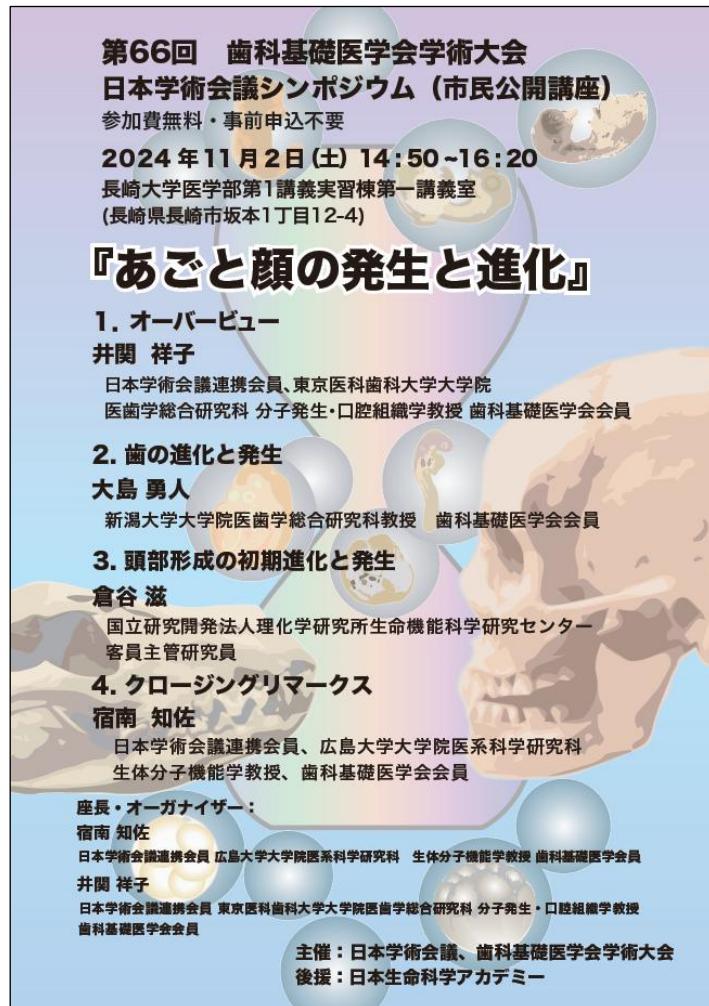
## 第66回歯科基礎医学会学術大会「あごと顔の発生と進化」

【日時】令和6(2024)年11月2日

【会場】長崎大学医学部第一講義室

【主催】日本学術会議歯学委員会、歯科基礎医学会

【後援】日本生命科学アカデミー



# 日本学術会議後援シンポジウム

## 「基礎医学研究から拓く次世代ヘルスケア」

### 【 開催趣旨 】

睡眠は身近であるが謎に満ちた生理現象である。睡眠と健康の問題は密接に関わり合う課題である。たとえば睡眠の悪化は代謝疾患や精神疾患等のリスク因子であり、精神疾患の主要症状の1つは睡眠の悪化である。2010年代に入って、基礎医学的視点から睡眠制御機構の解明が急速に進み、新たな知見に基づく臨床医学への展開が始まっている。また、情報処理技術・精密加工技術の発展に基づく新規測定デバイスの開発と汎化も進み、睡眠の情報を一次予防に役立て、健康維持・増進に役立てる「睡眠健診」の仕組みも現実のものとなってきた。健康の維持・増進を目指す上で、科学的根拠を持った取り組み（エビデンスベースドヘルスケア）が求められている。

一方で世界的な趨勢として生命科学の研究の進展とともに、学術の専門性が進んでおり、社会に成果を還元していくための横断的な連携が大きな課題になっている。これらの課題を解決する目的で、伝統のある基礎医学の3学会による日本初の合同大会 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会の合同大会の開催に際し、基礎医学研究から拓く次世代ヘルスケアを考えるシンポジウムを開催し、産官学の著名な講演者に「睡眠」を軸にご講演頂く。

【 オーガナイザー 】 南 陽一（東京大学大学院医学系研究科准教授）

赤羽 悟美（東邦大学医学部教授）

### 【 演 者 】

1. 開会の挨拶・趣旨説明 赤羽 悟美
2. イントロダクション 南 陽一
3. 「睡眠医学の現在と未来～睡眠健診の実現に向けて～」  
上田 泰己（東京大学大学院医学系研究科教授）
4. 「睡眠とデジタルヘルス」 山本 義春（東京大学大学院教育学研究科教授）
5. 「ライフステージと睡眠 一小児科期からのこころの健康づくりー」  
永光 信一郎（福岡大学医学部教授）
6. 「健康日本21（第三次）における睡眠分野の取り組みについて」

谷口 優子（厚生労働省健康・生活衛生局健康課室長）

7. まとめ・閉会の挨拶 南 陽一

【 日 時 】 令和 7 (2025) 年 3 月 17 日

【 会 場 】 幕張メッセ

【 主 催 】 日本解剖学会、日本生理学会、日本薬理学会

【 共 催 】 日本学術会議機能医科学分科会

【 後 援 】 日本生命科学アカデミー

# 事務局からのお知らせ

会員・賛助会員の皆様には日頃から多大なご支援を頂き、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。今回は4年ぶりのNews Letterの発行であることから、日本生命科学アカデミーおよびその周辺の最近の動向についてご報告申し上げます。

日本生命科学アカデミーは日本学術会議第二部が関与する生命科学の幅広い学術活動を支援する組織として昭和62年（1987年）に発足し、今年令和7年（2025年）には設立38周年を迎えます。この間、当アカデミーの事務は全て日本学術協力財団にお願いして参りました。しかしながら、日本学術協力財団が本年（2025年）3月に解散する事になりましたので、これを機に新たな事務体制を整備して参りました。新組織として今年度はさらなる飛躍を目指しているところです。

ご高承の事と存じますが、日本生命科学アカデミーの会員は原則として日本学術会議の会員あるいは元会員に限定しており、本アカデミーの会員は大学、研究所、学会、医療機関等に所属する、生命科学分野に関し広範で深い識見を持つ科学者により構成されています。そして、日本学術会議第二部では生命科学分野におけるわが国独自の創造性豊かな発展とその推進を図ることを目的として活動しており、本アカデミーはこの活動を支援する事で日本の生命科学研究を支えております。

日本学術会議の今後の在り方については国会でも議論され、本年6月11日に「日本学術会議法案」が参議院本会議において可決されるなど、現時点においてはまだ流動的ではありますが、光石日本学術会議会長は会長談話（本News Letterに掲載）で『「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」及び「日本学術会議第26期アクションプラン」による自らのさらなる改革を進め、次世代へと引き継ぐことを国民、社会に対し約束するという我々の宣言に従って、今後、活動を進めてまいります。』と述べておられるように、更なる改革を行う事で日本の生命科学研究を一層進展させていくと宣言されています。

会員・賛助会員の皆様からの暖かいお志は、上記のように日本の生命科学研究の発展に有効に活用させて頂いているところです。今後ともご支援・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 日本生命科学アカデミー会員の皆様へ

日本生命科学アカデミーの会員の先生方にはご指導・ご鞭撻をありがとうございます。本アカデミーの活動を支えて頂くため、会員の増強運動を行っております。以下の一覧表をご覧いただき、まだ入会されていない先生がいらっしゃいましたら、是非入会をお勧めいただけますでしょうか。

また、ご支援頂ける企業の賛助会員の新規入会案内も積極的に行ってます。先生方からご紹介を頂けましたら、事務局の方から連絡を取らせて頂きます。次ページに賛助会員一覧を掲載いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 日本生命科学アカデミー会員

(2025年4月1日現在 50音順 敬称略)

名前	学術会議在期	名前	学術会議在期	名前	学術会議在期	名前	学術会議在期
秋葉 澄伯	23,24	熊谷晋一郎	26,27	武田 洋幸	24,25	本田 孔士	19,20
天谷 雅行	24,25	黒川 清	17~20	田中 平三	18,19	本間 さと	22,23
五十嵐 隆	20~22	小林 義典	18,19	谷口 維紹	20,21	松尾 裕英	19
伊佐 正	24,25	小松 浩子	24,25	谷口 直之	22,23	松木 明知	18,19
石川 冬木	23,24	小安 重夫	24,25	玉腰 晓子	26,27	松田 一郎	19
石塚真由美	24,25	齋藤 和雄	17	丹下 健	24,25	松田 道行	24,25
磯部 祥子	26,27	笹川 千尋	22,23	丹沢 秀樹	23,24	眞鍋 昇	24,25
磯部 光章	23,24	佐治 英郎	24,25	戸田 達史	24,25	眞弓 忠範	20
市川 哲雄	24,25	紫芝 良昌	19	外山 圭助	17	御子柴克彦	20,21
井端 泰彦	19	斯波真理子	26,27	永井 良三	20~24	三澤 章吾	17
遠藤 實	17,18	柴崎 正勝	20,21	長野 哲雄	22,23	三品 昌美	20,21
大隅 典子	20~22	濱澤 栄	23,24	那須 民江	22,23	満屋 裕明	21,22
大野 竜三	20	嶋田 透	22,23	鍋島 陽一	20,21	南 裕子	20,21
大政 謙次	22,23	清水喜八郎	15 ~ 17	西谷 陽子	25,26	宮坂 信之	22,23
岡田眞里子	26,27	清水 誠	19,22,23	西村いくこ	23,24	宮崎 康二	23,24
岡部 繁男	23,24	城石 俊彦	23,24	西村 理行	24,25	宮下 保司	20~22
尾崎 紀夫	25,26	水田 祥代	20,21	西村 ユミ	25,26	村上 伸也	25,26
折茂 肇	16,18,19	杉本 恒明	17	野出 孝一	26,27	望月 真弓	24,25
甲斐知恵子	23,24	杉山久仁子	25,26	橋田 充	21,22	森 和俊	26,27
春日 文子	20~22	清木 元治	21 ~ 23	秦 順一	18	森山 啓司	26,27
片田 範子	23,24	瀬戸 晃一	20	樋田 京子	26,27	矢崎 義雄	18,19
加藤 和人	26,27	高木 利久	23,24	平井みどり	23,24	柳澤 信夫	17
金子 章道	19	高戸 肇	21,22	廣川 信隆	20,21	山口 朗	22,23
金子 敏郎	18	高橋 清久	18,19	福井 次矢	21,22	山本 雅	20,21
神尾 陽子	23,24	高橋 雅英	22,23	古屋敷智之	25~27	山本 雅之	22,23
神田 玲子	25,26	高橋 良輔	26,27	寶金 清博	23,24	渡辺 京子	26,27
岸 玲子	20,21	多久和典子	24,25	本郷 利憲	17,18	渡邊 誠	20,21
熊谷日登美	24,25						

# 日本生命科学アカデミー賛助会員の皆様へ

賛助会員の皆様には常日頃から日本生命科学アカデミーの活動に積極的にご支援いただき、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。日本の科学レベルの低下が強く指摘されておりますが、賛助会員の皆様からのご厚志は日本の科学の進展のために有効に使わせて頂いております。

日本生命科学アカデミーでは微力ではありますが、今後とも活発な活動を展開して参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 日本生命科学アカデミー賛助会員

(50音順 敬称略)

令和6年度
相田化学工業株式会社
旭化成ファーマ株式会社
株式会社大塚製薬工場
興和株式会社
公益財団法人コーワコスメトロジー研究財団
サクラグローバルホールディング株式会社
株式会社 ジーシー
株式会社 松風
大正製薬株式会社
タカラベルモント株式会社
中外製薬株式会社
ネオ製薬工業株式会社
株式会社 モリタ
株式会社 ヨシダ
株式会社 ロッテ 中央研究所

# 会員・賛助会員ご入会申込書

本アカデミーは日本の生命科学研究の発展に資する事を目的に活動しておりますが、運営は会員および賛助会員の会費のみで運営しております。このため潤沢な資産を有しているわけありません。財政基盤は残念ながら極めて脆弱です。本アカデミーの関係者におかれましては、本アカデミーの活動にご賛同頂けましたら、新規の会員および賛助会員をご紹介いただけましたら誠にありがとうございます。何卒ご高配の程よろしくお願ひ申し上げます。

本アカデミーのホームページから以下の申込書をダウンロードすることができます。

## 会員ご加入申込書

- 必要事項をご記入の上、E-mail添付でお送りください。
- 折返し会費の払込取扱票等をお送りいたしますので、郵便局か銀行で会費をお振入ください。

日本生命科学アカデミー事務局  
info@ja-ls.jp

お名前	
貴社名	ご担当者様のお名前（ ）
ご住所 所在地	（〒 - ）
電話番号	
FAX番号	
E-mail	
会員の種類	(会員の種類をお選びのうえ、口数をご記入ください。) <input type="checkbox"/> 「正会員」 (年会費¥10,000) 個人 (日本学術会議会員・元会員を対象としております。) <input type="checkbox"/> 「賛助会員」 (年会費¥100,000/口) <input type="checkbox"/> 企業・団体 (口数をご記入下さい) 合計金額 _____ 円
その他	

